

---

領域名：地域保健看護

報告者：知念 真樹

---

教育及び実践の課題

---

保健師の継続教育の内容を考えるうえで、その学習ニーズを把握することは重要である。本学では、卒業生への継続支援として、教員が事例検討会の開催を行ったり、看護協会が実施する県内の新人保健師研修会へ講師として協力したりしてきた。一方で、継続教育での学習ニーズを把握することで、保健師基礎教育で強化したほうがよい科目も明らかになると考えられる。取り上げた論文は、カナダの Community health nurse（以下 CHN）の実践での学習ニーズを把握するための全国調査の報告である。カナダでは、CHN には訪問看護も公衆衛生看護も含まれ、所属する機関により仕事の内容が異なっている。論文を元に沖縄との違いを踏まえ、継続教育への学習ニーズから、学部教育での強化すべき科目の示唆を得る。

---

活用した論文の概要

---

論文の目的は、カナダの CHN 実践基準 88 項目 (2008) に関連した学習ニーズについて、全国調査を行い、その内容を分析することである。

結果は、CHN 実践基準 88 項目中の 25 (28.4%) で学習ニーズが示された。また、CHN は、ほとんどの CHN 実践基準に自信をもっている事が示唆された。中でも 3 つの項目で、高い学習ニーズ (平均スコア > 0.6) があり、そのうちの 2 つは疫学に関するもの、もう 1 つは情報科学 (情報に関するアプリ、通信テクノロジー) に関するものであった。公衆衛生看護師は、在宅医療看護師に比べ、「集団の健康増進プログラムをシステムティックに評価すること」について、多くの学習ニーズがあった。CHN の経験が 2 年以下の看護師は、「公衆衛生政策を提唱すること」について、経験をつんだ看護師と比べ、学習ニーズがあった。また、ナースプラクティショナーは、正看護師に比べ「個や地域の協議プロセスに関与する時は、地域開発指針を活用する」ことについて、多くの学習ニーズがあった。多くの看護師は、実践で基本的な理論的枠組み (オタワ憲章でのヘルスプロモーションや、ジャカルタ宣言やポピュレーションヘルスプロモーションモデルなど) を適用できるかどうか自信がなかった。

---

教育及び実践への活用

---

1. 1 年次対象の「保健医療情報演習」では「疫学」に続いて「地域アセスメント」の講義を 1 コマ行い、その後、「地域保健看護実習 I」で「地域アセスメント」を行っている。その際、公衆衛生看護活動での「地域アセスメント」と「疫学」との関連性が理解できるように授業内容、実習内容を工夫した。また、「地域保健看護 I」、「地域保健看護 II」の講義や演習において実習市町村の「地域アセスメント」を行う上で、基本的なデータは示しているが、収集する根拠については、教育の取り組みがまだ十分ではないため、今後も強化する。
  2. 量的データを扱う調査研究を、ゼミナールなどへ取り入れることを要望する。
- 

参考文献

---

Ruta K V. et.al. (2014). Community health nurses' learning needs in relation to the Canadian community health nursing standards of practice: results from a Canadian survey. BMC Nursing, 13:31.

---